

## 第7回幼児教育実践学会

## 口頭発表資料

### 「遊びと学び」

発表者 静岡豊田幼稚園教諭 大村大輔

共同研究発表者 國學院大學教授 神長美津子

#### I 企画趣旨

これからの教育は、子どもたちが「何を知っているか」だけでなく「知っていることを使って、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」という視点が重要であると言われている。また、感情のコントロールや粘り強さ等の非認知的能力を育むことや、課題の発見や解決に向けた主体的・協働的な学び(アクティブラーニング)の充実も課題となっている。そのような中で、幼児教育に携わる保育者は、子どもたちの主体的な遊びの中には様々な学びがあり、それらが小学校以降の学びにつながっているということをしっかりと捉える必要があるのではないか。そこで私たちは、遊びのプロセスの中で子どもたちが何をどのように学んでいるのかを探ると共に、その学びを支える環境や保育者のかかわりについて考えていきたい。

#### II 本園の概要

本園は昭和25年に私立幼稚園として開園、昭和31年に学校法人として認可された。

少人数のクラス編成や多様な形態によるチーム保育の展開により、一人一人の幼児に応じたきめ細かな保育を実践している。創立以来、徒歩通園を園の方針としており、家庭との連携を大切にしながら保育を行っている。幼児が自ら環境にかかわって生活する中で味わった感動を、様々な方法で表現していくことを大切にしている。園庭に四季折々の花や木を植えたり、園の畑で作物を育てたりと、幼児が一年を通して様々な自然と触れあうことができるようにしている。毎年、園全体で取り組む研究のテーマを設定して園内研修を行っており、その研究の成果を公開保育や研究発表会を通して発表するように努めている。

教師は幼児一人一人の良さを認め、幼児が安定した気持ちで充実した幼稚園生活を送ることができるよう『全教職員が心をひとつにして全園児を育てる』ことを心がけている。

### Ⅲ 研究の目的

1. どのような生活や経験が幼児期の学びとなるか、具体的な事例を通して考える。
2. 子どもの学びを支える環境構成や教師の援助について考える。

### Ⅳ 研究の方法

各教師が記録した事例をもとに、どのような生活や経験が幼児期の学びとなるか話し合った。

- (1) 遊びの中で子どもたちはどのような経験をし、学んでいるか、付箋に書き出し話し合う。
- (2) 付箋に書き出したものを KJ 法でカテゴリー化し学びのキーワードを括り出す。
- (3) 子どもの学びを支える環境構成や教師の援助について話し合う。

### Ⅴ 研究の内容

子どもにとって経験の積み重ねが学びであると考え、3 歳児から 5 歳児までの日々の遊びの中で、子どもたちがどのような経験をし、学んでいるか具体的な事例を通して話し合った。口頭発表では、5 歳児後半の造形展への取り組みの事例を中心に発表する。

#### 事例 1 ハッピー自動販売機を作ろう (5 歳児 2 月)

- (1) 遊びの中で子どもたちはどのような経験をし、学んでいるか、付箋に書き出し話し合った。

この事例から読み取れた経験や学び

- ▶ 遊びの目的に向かって、集中して試行錯誤する。
- ▶ みんなで決めた共通の目的に向かって協力して活動する。
- ▶ お互いの考えを伝え合ったり、受け止め合ったり、認め合ったりして取り入れていく。

- (2) 話し合いによって出てきた経験や学びを KJ 法でカテゴリー化し、学びのキーワードとして括りだした。

その結果、「認知的能力」と「非認知的能力」とが、一つの遊びの中に総合的に入っていることが分かった。

認知能力と非認知能力の両方をセットで育てていくことが幼児期の生活の中でとても大切であると分かった。

(3) 子どもの学びを支える環境構成や教師の援助について話し合った。

- ▶ 子どもたちを信頼し、任せる。
- ▶ 自分の思いを自由に言えるような雰囲気作りをする。
- ▶ それぞれの考えのよさを認める。
- ▶ 結果はわかっているにもかかわらず、並走者として子どもの考えをなぞって言語化したり、拡張したりする。
- ▶ 考えるきっかけづくりをしたり、考える視点を示したりする。
- ▶ ハッピー自動販売機ができあがるプロセスを子どもと一緒に楽しむ。
- ▶ 納得するまで試行錯誤できる時間や場を保障する。

## 事例2 ロボットのおうちづくり (5歳児 1月)

この事例から読み取れた経験や学び

- ▶ 自分の経験を活かし、友達と協力して問題を解決しようとする。
- ▶ 相手の心情を汲み取り、想像しながら提案していく。
- ▶ 友達の優しさや温かさを感じ、信頼を抱く。
- ▶ 共通の目的に向かっていくなかで、仲間としての連帯感をもつ。

学びを支える環境構成や教師の援助について

- ▶ E子の心情が、他の子にも伝わるよう代弁する。
- ▶ 子ども一人一人の思いや行動に込められた意味を大切にする。
- ▶ 子どもの興味や楽しさを大切にしながらも、共通の目的をもう一度意識させる言葉かけをする。

## VI まとめ

子どもたちが学ぶために、本園としてどのような経験を大切にしていきたいか述べたい。